

# 緑のまきば

1985 No.22

小金井緑町教会  
小金井市緑町四一六一三三  
電話〇四三三一一七九六一  
編集 牧師 山本圭一

## 見よ神の小羊

(ヨハネ福音書1章29〜34)

### 説教

山本圭一

その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ1章29)。洗礼者ヨハネのこの証言が、いかなる公衆に向ってなされたかは明らかでない。またイエスがどこから、どのようにして来られたかも述べられていない。このテキストはもっぱらイエスの人格と、ヨハネの告白の言葉に関心が集中している。

「過ぎ越した」。神の小羊は「越の小羊」であった。今やイスラエルを滅びより救い出す方であり苦難の歴史の只中で解放をもたらす救主であった。

### 1

時はユダヤ人の過越の祭りが近づいた早春の頃。洗礼者ヨハネはエルサレムの神殿の祭司ザカリヤの子であったから、神殿の祭りと献げられる犠牲について充分の知識を持っていたのは確かである。エルサレム城壁の東側にある羊の門(ステパノ門、ライオン門とも呼ばれた)を燔祭用の小羊が群れをなして通るのを、彼は見ていた。

犠牲の小羊は毎朝毎晩献げられていたのである(出エ29章39〜42)。これを熟知していたヨハネが、自分の方にこられるイエスを見て「神の小羊」と告白した。その本意は次のようであったにちがいない。「神殿では毎朝毎晩、過越の

小羊が人々の罪のあがないのため

に献げられている。しかし、それらの小羊はも早必要がなくなり意味を失った。なぜなら、このイエスこそ人々を罪からあがなう唯一の救主であるからである。」

### 2

ここに信仰告白の典型が示されている。第一に「世の罪を取り除く神の小羊」として、イエスをその本質においてあるがままに認め

たことであり、第二に認めたことをことばによって言い表した点である。従って告白するとは「事柄をあるがままに認め、認めたことをことばによって言い表わす」と理解することができる。

### 3

さて小羊としてのイエスは、世の罪を取り除く、神の小羊と告白される。「世の罪を」取り除く「神の」によって言い表わされたものは「罪を」告白する懺悔であり、「取り除く」恵みを告白する感謝であり、「神の」小羊・キリストを讚美することである。つまり、懺悔、感謝、讚美がこめられているのである。従って「懺悔」の告白が、どうして「讚美」の告白になるかは、この両者のあいだに「感謝」の告白をいれて考える時、はじめて明瞭になる。罪の告白は自分の力で出来るものではない。

罪を白状するとか、泥を吐くことではない。たとえ自分の非を認めても、そこにただ一片でも弁明の気持ちがある限り「懺悔」とは言われない。罪を告白せしめる人格に向っていることが重要である。聖霊が心を照らして自分の罪を認めさせ、キリストの十字架と復活の恵みを告白する信仰によって感謝が生れる時、それは讚美の告白となる。懺悔の告白は感謝の告白を、感謝の告白は讚美の告白を誘発する。これらの懺悔・感謝・讚美は実は主イエス・キリストへの一つの告白なのである。

死の使いがあまねくエジプトの長子たちを殺した夜、イスラエルの人々はほふられた小羊の血を、入口の二つの柱とかもいに塗らなければならなかった(出エジプト記12章7〜)。その小羊の血を見て死の使いはイスラエルの家々を、

い。「神殿では毎朝毎晩、過越の

白は自分の力で出来るものではない。

教会は、この信仰の応答が生起するところである。私たちが洗礼を受けて教会に加わろうとする時必ず教会の信仰告白を神と教会の前に公にする。生けるキリストのみ霊の導きにより、主体的に誠実に救いを受容し、終生新しくこの告白を繰り返して生きている。たとえ死に臨んでもこの信仰を告白しつゝ召されたい、と思う。

自分が無であり、罪のかたまりであるという告白は、それだけでは誇張であり、虚偽である。人がどんなに悲惨であっても、この一人をお見捨てにならない神の小羊キリストへの告白が、信徒をキリストの肢体たらしめるのである。